

① 授業については、今回 14 回行った。その中で様々な工夫を取り入れながら授業を行った。「誰もが楽しく興味を持てる授業」をテーマに取り組み、私自信の経験や大学生活、マンガ等を授業に取り入れた。子どもは楽しく、毎回授業に取り組んでくれたが、知識・理解の分野では、少し説明不足もあったために、そこは反省材料としたい。

② また、毎回班学習を取り入れたことにより、思考・判断・表現の分野や言語活動にはかなり力を入れ、支援が必要な子どもの学習の助けにもなった。教師になってもこれは続けたい。

生徒との交流については毎日、土日も含め部活動（野球）に参加した。子ども達と真剣に向き合い、時には激怒した。真剣さが子ども達にも伝わりチームは少しずつだが変わりだし、結束が強まったと思う。また、宿泊行事や試合の監督もさせていただいた。

③ 他にも不登校の子どもや課題を抱える子どもとも積極的に関わり、心をつなぐことができた。

教師の業務としては、資料作りやテスト・宿題のチェック、採点等で授業以外の時間は使われていた。他にもあいさつ運動や家庭への電話、関係機関との連絡等で多忙であった。

④ 実習全体を通して、課題の持つ子どもを中心に授業を組み立て、子どもの心とつながることを意識して取り組んできた。その結果として、不良で一学期間、一度も授業を聞かず、教科書を開かなかった子どもが、自ら手を挙げて発言をした。さらには教科書を開き勉強を始めた。

二年間不登校だった子どもが学校に来るようになり、高校進学を目指して勉強を始めるようになった。

小さなことだが、短い間で子どもの成長をたくさん見ることができ、また自分自身も成長することができたと感じました。子どもと心から関わる、受け入れてあげる、よい所を見つけてあげる。そういったことを心がけたことが良かったと思います。

また教材研究、教科指導の勉強には終わりが無いということを改めて感じました。授業・生徒指導等も常に研究と修養に励むこと、これでいいことはない、毎日勉強なのだと思います。

これから実習へ行く人へ、何か自分の考えていることを子どもに伝える。子どもとしっかり関わることを大切にしてほしい。